



門 凡 2
號 3107
卷



序

此の録者余とて遊み作る所に

六大洲の大畧方位度数英二國の大

小人物とを乃るを地理を好む小児

たをわねるをむうと思ひ文乃は

あまをか以るを作るをあり

早稲田 大學 図書館
第 27.6.6 号
藏 書

人々是を見事一笑したまふ余が幸
ありしなり

天保六乙未六月大雨時行日

古筆了村志

万国の録

天度之事 古筆了村著

世界者球者なりと人々を理をうくる
先を急を赤乃北極地一度極北に
至れを北極地九十度人乃頭上にあり
是を道れ極星の急にして後二子申書

以去赤乃の下にむる南極も是より同し

赤乃乃周志日本道一万八百里三十度より地

より至る三十度つまり六拾度乃地に到れを

六拾度法する九十度より北に九十度法する

一點を去る春夏秋冬を南黄道三十度

より過る時を冬を去る春秋を赤乃を通る

夏を北黄道三十度半を過るかるがゆへ日本

度土を去るを暑氣甚し先一度と云を

三十里より日本夜乃時ハ是會せの玉星を

去る日本昼乃時を夜を去るを

亞細亞

大日本 ヤアパン

日本、刻海内の大略長さ八百里、平百里、
別数、南十八、南七、三十度、ふかこ、北を以て、
いゝる人、おの志、こく豊饒、り地あり

蝦夷 野作

日本、松前と地、片、き、之北、極、四十三度、より、み、十二度、
より、至る地、南北、より、わ、かり、北を、かく、志、と、い、い、南を

みる、と、志、と、い、い、刻、か、く、人、お、極、て、愚、あり
産、お、い、わ、れ、と、せ、い、多、く、東、志、と、志、と、う、ふ、と、わ、む
さ、ま、か、乃、う、る、つ、ふ、と、海、上、十、里、斗、を、へ、ま、て、く、う

朝鮮 難林

日本、對、州、豊、浦、と、朝鮮、釜、山、浦、を、海、上、四、拾、里、と、い、ふ
志、礼、と、も、實、に、二、十、里、斗、あり、北、極、三、十、五、度、に、記

四十三夜よりおはる地ハ乃々わが川 全羅道

慶尚道忠清道江原道京畿道黃海道咸

鏡道平安道あり於城志京畿道の内あり

琉球 流鬼

小笠あり北極地ある或十及地三分を南山

北山中山と云日本薩摩より海上八拾里斗

都城を首里と云

加模西葛杜加 赤帳夷

北極五十五夜より六十五夜まで日本正徳乃比あり

志やのそりこくとあはりハうらりけがハと云

漆を良き漆あり

唐土 をうらうら

四百余州の地を別つ北極二十度より四十度なり
至る孔孟の如き大聖人かゝる國都城を北京
と云ふ

天竺

廣大なる國あり南天竺東天竺西天竺北天竺
中天竺ありと云ふ者やうも東天竺の内ありかんと

云所より生る説法をとかれ志所を南天竺の
内せいりんと云者あり

天竺の地をち

こ乃北極か地二十度雲南の南より南の安南
此内あり玉人格愚して男ハ盜をくを言ひ
女をりん礼を貴ぶ獸の肉をたむ唐土の属西之

百兒西亞

北極或十度より四十度に至る古國王大成る
石臺を造くる其廣大なるを言ふ其難志
天下七奇の内あり

亞刺皮亞

北極或拾度より二十度至る國中は大廣野

有ことくは沙地あり是を過る時大風おれ
を方角を失ひことくは沙よまびれを
おれ死と云

度爾格

二大洲のわだかまる大國あり亞細亞度爾格
歐羅巴度爾格と云は國樂徳海岸の洞人

大成をまゝをいりけよる間を大船通
ると云天下きやう小洞人を天下七奇の内之

回々ホイヤ

大國あり西去北高海を望むむうまこめ
と云聖人か之國あり

韃而靺 タルタリヤ

亞細亞北方乃惣名あり氣作極て寒く冬

月雨あり人性極テ勇病テ死るを辱と世人

并羊足成る物を世人一飛ふ三丈程飛ぶの

る夏乃月氷の厚さ二尺を

新セむ

亞細亞北海乃海より北極七十度乃地

其ふ所大嘗之首歐邏巴人初て見か
せり此嘗此人至てしけサを三又斗かわの
衣を忌日月をかると志いのる今いおろ志や
属せり

さもいひてまゝさもいじん

新せむろよ辺志あぢや北方地はつき北極地を

いほる七十夜より七十八夜に至る極て寒國
之見又人乃丈三尺斗り今いおろ志やに属せり

海嘗

呂宋

唐土の廣州より東南に當る北極地をあらる

斗り及昔いをもよやの人け地より交易を為す

か乃人熊の皮をおひきくくおまけ皮をひ
く程の地を注下と云りれを國王がひ國へ信を失
り之を忍れ云乃地をあゝるけよおひて俄
よと星でをきを度はいよ國をうひる

馬路古キロー

此等赤乃乃下に在此國よ大龜をからの肉よ

教人を容へし戦の時きてとあててきを

禦くと云

渤泥

赤乃の下のよをて暑き國あり獸を羊よ似り
把難爾と云を腹中よ一つの石を生を百病を
治を國王籍をるをりて利と為す

瓜哇 ガラツバア

南極七度之地をむかひ紅毛人は國を取れり
城をびびやと云はん花の地あり紅毛
かびとんけ國より日本へきとる

右亞細亞州の大畧也

歐邏巴

阿蘭陀 紅毛

此國北極北地五十二度日本九州程乃國の地を
セツと分ツけ小國といふとも船を諸國に通
お交易を為す故に國富なり

拂郎察

此國北極四十二度より五十二度といふ

都バ里をと云えん花乃都之いき里を
海上ゆをかよ十武里をへりいさをや
とへ急れぬと山をりりてさか急り

伊斯把係亞

北極三十度より四十八度と至る此國船を
諸國と通し交易を為し故富強く

盛なり北あめりか乃内を亦諸國と屬國
有り銀を産するを極て大ニ志かれとも
あ急り加うり取て地銀ほるるを堅く
いましむ利未亞と海上ゆをかよ六里を
へり世をきぶらるのそと急西利

ホルトカル

此國を北極三十八度より四十六度に至る
都城をりをほんと云西者大西洋を
望む此國も諸國の交易して富きや
うあり南ありか乃内之属國有り

意大里亞

此國北極三十八度より四十六度に至る

西南を地中海をのそむ東をべぬちや
海をのぞむ北を大山を望む此國を
昔古歐邏巴第一のきやう國たり志が
今古帝勢おとろねたり

テイ子馬ルカ

此國北極五十六度より五十九度に至る紅毛

大威あり北ありか

乃内クルウニラント此國の屬國也

スウエイトニ

此國北極五十七度より七十度に至る大國

成昔よりづれの國をも従さしむるか

今者ヲロシヤに屬せり

波羅泥亞

此國北極五十九度より六十二度に至る國也

東西南三方に地はつきり北方に窟々所

徳海を望む此國に海へん琥珀を産

する多し

魯西亞 ヲロシヤ

此國北極みす夜より六十八夜み至ルこの
 都城をベドルブルグト云昔ハ人お極て愚みし
 ペルト、玄明王およりり候く人くかきき
 二至るそ後明王多くかき國を治む
 日本正徳乃比み至て北者スウエイト
 戦て之服徒也志免南志小多ルタリヤ

及度爾格と戦て之をやめし西者歐羅
 巴諸國服さし東者亞細亞乃北へん
 大韃靼及カムサスカマデ數千里の地をろバ
 いとれり又近年より至て西亞墨利加
 を棄とれり扱こそ天下第一乃強國とわ

あれり

海鳥 アンケリヤ及スコシヤ

此兩國地續よきて北極より五十九度より至る昔は兩國に分れて戦有
志よスコシヤ乃為よアンケリヤ敷度負け
れを是をうれいて兩國乃界めよ大
なる土ををつきてスコシヤをふせけり

今志アンケリヤ乃為よ合せられきり
アンケリヤ乃敷をロントト云ふて是人
花の敷あり紅毛持ゆゝる時計目
り其外奇物を管け敷より如き不
あり

イルランテヤ

け 國北極ありニ夜より
あけち夜より起るアンケリ
ヤより西方當りわまかみ海をへるけ國
今者アンケリ中に屬せり

ザルシニイ

意大里亞乃屬島あり北極か地は十夜日
本に國はもろ考ありけ島に異草を産

是をさつどたと云り一人志をも
して取食時者大笑とどらくはいよ
ハ笑死すと云故に西洋諸國ある大笑
せる物をさつどたと云乃笑と云あり

シーリヤ

是も又意大里亞乃屬島あり北極か地

三十八度サルシニイヨリスヨシ大成嘗あり此
島二山あり一ツ名けむりをおス一ツ名
か火け火三十里余海城へどてたる利未
亞州に飛る有り

スビツーベルケン

此嘗魯西亞之真北よりありて歐羅列よ

屬を昔ヨラロツバの人始て見おせり北
極地八十度は島之海へん^{トカ}夾山多し
スビツーワ尖を云ベルケハ山城云尖山と云
る之は國寒氣甚く冬月より夏ハ海氷
て大冰山をあり冬月ヨウラツバ人あ
やまりては地より死を夏月よ

至ハヨウロッパ諸國乃人として自然をよび
多きをとり

右歐羅巴州之大畧ナリ

利未亞

巴尔巴利亞

此地北極三十度より三十七度より至ル東西

之十五度北去地中海をのぞき西者大西洋
をのぞき南者沙拉界東者既日多し
界ス此國歐羅巴諸國より汝ル所多シ

沙拉

け國北極十八度より三十一度より至る東西に
十五度此國內大山廣野多し諸國に

はさまれ西の方の大西洋をのそむ
申すも國中第一の廣野なり是を過る
時志日月星辰并ふ志くやくを以て方
角を定め通る之り廣野といきり
り大風起る時ハ方角を失ひ沙目ほよ
入てををれ死といひ死を志かづき

沙乃申す有て手をつめを石乃如く堅
く成ると云是をイキナト云紅毛持渡
る有り百病成治ト云

ニキリシヤ

け國北極七度より二十度までの東西
四十度地の大川大山多志は國諸雨

夾て西方のそしをわたり大西洋のそし

キ子ア

此地北極五度より九度まで東西三十

二度西志大西洋を望む南志大南洋を望

此地歐羅巴より流る地多し

亞昆心域

此地北極八度より十六度まで人皆黒色

惟鹿目極白人篤實として道為るを

以らひそ國をよそ是と流る

既日多又既入多

此地北極二十度より二十度まで北の地

中海を望み西南の諸國を連る東ハ

西江海をのりむ只残み亞刺皮亞と續け
り此國の入口に大城をのりも美しい廣大
あり國中を子イル川流れり古より此國
兩邊と云

易以布刺

此地赤透乃下にて起て南極に十の度乃地

至る東西二十の度北方を地續くを諸
國に連れり東南南の三方を大海を望
國中大山多し中よりエバタ山ありとも
大城り此國の南方をホツテントツテント云
此所をわんを人毛外をろツパ諸
の船東方へ渡る時必寄所ありりよかん

互に所の南の峯を喜望乃峯と云エラロツパ
諸國の船此海上より浪荒しと逐か名さ
るゝことなるといふ故又此峯一あがり大に喜故に
喜望乃峯ト云入

海峯

福峯

此峯北極地より三十度大西洋より有
島數七峯福峯を其惣名あり此島は
より雨ふくを大樹を日影こより雲氣
是をまるとを日かゝると雲散して樹
の下に數池をぬす西洋諸國是にあり文
易をぬす豊きやうの峯也

聖多默

此島キ子ヤノ南方赤瓦の下ニ常ニ雲
をくひ雨多く此島乃果志種ありと云

麻打曷矢葛尔

此島ヲカツフルノ東方ニ在る南極十二夜より二十ニ
夜よりいそる故嘗人相極て愚うしてヨラ

ロツパ諸國の船此地ニ至り食物の乏しき
ところを海へんに去て是時を故十人來
りてあそい食と云

右志利末亞州の大畧あり

南北亞墨利加

昔西洋の大巨名閣良ある者始て至の

地あり甚大なる事天下乃中を平
命を南極五十七度より起て北極八十一度
より至る東西七十余度俗に新世界ト云

南亞墨利加

長人國マツ子ル

此地北極四十度より五十度より至る人乃身

一丈通身皆毛好弓矢を持矢を口中に入れ
羽はくまると至て勇を志めしを男女
皆又色を以て文とある昔西洋人始と
此地より至り水を求めんとて数人小船
よ乗り岸よのぶる待り三日ついで
歸を驚馬恐れしにけ歸りしとを

アマソ子

南極の地より十度四方皆諸國の圍れ海
を見まけ國志女人斗をむ之を年此國
去一夜他國の男子をとろに來り換くよ
ろくさむとをりあやまりて夢の時き
到れちたちまをいころを

お生子男子なれを是をころを女子

なれをころを

伯西兒

此國南極二夜に起て二十二夜に起るは國の
目鏡を大樹をまといり凡歎をか至ハ
氣をかき尾以てきびしく樹林をまとい

食とをわさくきまらちげし、美しく白く
まきとをり紙の如しと云

ヘイル

此國南極五度より記て二十度に至る地極て
富きやうあり大木をサツジサルマト云此木
の油を諸々のきりみ付れハ一夜こき肉合てか

乃如し屍よヌレハ千年をち花と云

カステイラ

此國赤道乃下を記て北極十一度より國中
全銀極て多し此國歐羅巴諸國より遠く
所り多し

右南亞墨利加乃大畧あり

北亞墨利加

新伊斯把你亞

北極十五度より四拾五度に至る伊斯把你亞

より南に合する國あり都城をメキシコと云

地極て富きやう異鷄あり甚大味最美あり

にびれ上より鼻あり象乃ハ其の如き縮僅寸

斗り伸れをみ寸斗あり羽をひろくれを

くぢやくれ如き此國四絶を一馬二屋三街衢

四ハ其貌ヲロシヤノ屬國あり

キビラ

此國北極二十度より六十度に至る地常に地

志人雷多くうちらりしる物多し

此國陸少一是ヲはれも至寶の如く貴ぶ
又廣野多志

新アニケリヤ

此國北極は十度より六十五度まで此國に
アニケリヤより后公なる國あり地大川多志
此國あり

グルウシテント附リエイスラント

此國北極は十九度より八十一度まで此國
テイ子馬ル加の屬國地極て寒く夏月
と云ども山上者雪をウニコヲル及クシラを
産者昔者無人廣原の地あり今に至る
ハヨヲロッパ諸國之船多く世海をくまると

とる上イスラントハ此属国あり

古巴附小イスパニヤ

此島北極二十二度より地多し獸多し小伊斯

把係亞此島北極初地二十度地多毒木あり

人其影を互れを死すと云

墨脱臘泥加 昔イスパニヤ人カウニカト云人始る足おせは依各地

新阿蘭陀附 新キ子ヤ

南極十一度より三十九度に至る東西四十五度

け小阿蘭陀始る開く國あり依て地多し

新キ子亞は國赤道より以南一度に記して十一度

至ル東西二十度を勢貌利未亞のキ子ヤに似り故

地多し名づく

新セーラント 元々ハイフーナムト

此島南極三十五度より起て四十七度に至る
中よりわすくし海をてへどく北を新
セーラントと云南をタハイフーナムトと云
共り大山を有

マルケーナ

此島南極十度より三十五度まで北海浪
荒船する事甚難し男女亦裸體
親子兄弟のしや別々し地より椰子を
又海より鯉を産す島より魚を此
島の肉つゝあきあまにする島人船を作
り丸木の舟をくしめぬき船とすは多

を船にほるし大蛇の形をぬす

南海

ヲラシタ進手メガラニカの南海の来をぬさる
所を審しし我属あせんとて甲板船四ツ
を以て各三手の食物を用意志南望で
ジヤハヨリ船をおし大南洋を去すむめめく

まのそ一手餘りし真黒のふし至
天地をゆきまはす異魚かい鳥人を見
てをろろろりし船中へ飛しむ船人
驚きをそれて船を歸しジヤハヨリ至
し及て四船の内二船ハ足はらずとを

右墨脱臘泥加乃大畧あり

孔子曰多鳥獸美木の名を志る地理志
学でふゝ然る是を大くせんといふ
功なきを志る小子哉元來地理を好
と云ふはとも勞して功を志るなれば
只を大畧志るのみなるを

美國小録年

